

寄り添う心 帽子に込め

同じ病気で悩む人たちを励ましたい。徳島県内の乳がん患者会「あけぼの徳島」が、抗がん剤治療で髪が抜けたがん患者向けの帽子を手作りし、無料配布する。肌触りが良く、かぶれにくいガーゼを使った約200枚。県内の主な病院に置く予定。

手作り200枚 無料配布へ

今年3月に県内の個人から贈られた寄付金で、ガーゼを購入し、帽子作りを始めた。

抗がん剤治療で髪が抜けた患者は、ウィッグ（かつら）や帽子、スカーフ、バndaなどを使う。市販の帽子は丈夫で機能的だが、1個数千円と費用負担が重く、洗い替えとして複数持ちづらいのが難点。会では4年前にも帽子を作り無料配布したが、当時はタオルを使って作ったため「重かったりサイズが合わなかったりして長時間使えない」という声が上がっていた。

今回は、会員同士で「自分が使うなら何がいいか」「何にこだわるか」などを話し合い、肌を優しいのはつらいんよね。同じ痛みを知る患者のために、自分でできることがあるのがすごくうれしかった。一つ一つ縫いながら「喜んでくれるかな」と思い、「元気に頑張ってほしいね」と願いを込めた」と話す。

あけぼの徳島の電話は、090(3786)7865。メールアドレス、akebono@yahoo.co.jp。(植松裕子)

ページを同封している。宮城慶代表(71)「徳島市国府町西黒田」は「コロナ下でもがんは待ってられない。告知されたり、再発や転移したり。亡くなった方もいる。コロナ感染を恐れて人と人が会うことができず、一人で不安になり、孤独を抱え闘病を続けている患者は多い。私たちが帽子とともに届けたいのが『心』。『同じ体験をしている人はいます。悩んでいるのは、あなた一人じゃないですよ』という思いを伝えたい。それが誰かの支えになる」と信じている。がん患者だけでなく、脱毛症で悩む人たちにも使ってもらえれば」と話している。

同じ病気で悩む人たちを励ましたい。徳島県内の乳がん患者会「あけぼの徳島」が、抗がん剤治療で髪が抜けたがん患者向けの帽子を手作りし、無料配布する。肌触りが良く、かぶれにくいガーゼを使った約200枚。県内の主な病院に置く予定。

抗がん剤治療者に向け患者会「あけぼの徳島」



「あけぼの徳島」が作った帽子



手作りの帽子をパッケージに詰める
会員たち=徳島市内